

平成25年度
10年経験者秋期研修会（東日本）
実施報告概要

本年度10年経験者秋期研修会（東日本）は、11月1日（金）～11月2日（木）の2日間、千葉市の東京ベイ幕張ホールで開催され、29名が参加した。

1日目には開会式に続いて、文化学園大学杉並高等学校、野原明名誉校長の講演「教育の現状と私学教員の役割」が行われ、学習指導要領とPISA型学力についても問題や、教員免許状制度の今後の展望など、教育界を取り巻く社会の動きについて詳細な説明がなされた。



夕食後は、少人数のグループに分かれての討議が行われた。各学校での校務分掌のあり方や、授業の進め方、あるいは生徒指導上の悩みなどを、熱心に議論していた。

2日目の午前中は、弁護士の本郷忠和准教授による「事例に学ぶ危機管理」の講演で、学校現場には、さまざまな事故や危険の可能性があり、それらに適切に対処する必要性を堀切氏は強調していた。

また、午後からの、群馬パース大学、原芳典講師による「生徒理解と学校教育相談」では、生徒と教師、そして保護者との関わり、私学をとりまく厳しい社会情勢と、生徒をとりまく複雑な環境を、教師はどう理解し指導していくか、実践的な話題を含めて示唆された。



閉会式では、当研究所の中川武夫所長による研修会の総括を交えた閉会挨拶の後、参加者代表に修了書が授与され2日間の研修会は終了した。